



地域に根ざしたセンターに！

前所長 濱石 和人

このたび、3月31日をもちまして、工業技術センター所長を最後に、37年間勤務しました県を退職いたしました。これまでご指導、ご支援を賜りました産業界の皆様方に心からお礼を申し上げます。昭和45年に県に採用され、機械金属技術指導センター、工業技術センター、工業振興課を経まして最後の1年間は工業技術センター所長として務めて参りました。所長として大変短期間ではありましたが、職員の協力や産業界の皆様のご熱意とご支援があつて、任務を全うできたものと感謝しています。

この1年間は、次の目標を掲げ取り組んできました。

1 研究開発の効率的な推進

研究成果を得るための道のりは地味で時間の掛かるものですが、まず成果の指標として特許出願件数を3件を取り上げました。平成19年3月時点で6件の出願を実現できました。

更に、シラス関連特許3件、排水処理関係1件、焼酎関係2件、高分子材料関係1件、計測関係1件、金属材料関係1件の合計9件の特許を取得しております。

2 技術支援の充実

技術支援として技術相談・指導、依頼試験・分析、人材育成、技術情報提供等に努めています。

18年度の指標として第1番目に、産業界の皆様様の現場への研究員の訪問の強化をあげ、研究員一人当たり10社訪問の実施に取り組みました。その結果、1年間で約300社、延べ700回以上の訪問を実現し、皆様のご貴重なご意見を頂くことができました。

第2番目に技術相談・指導件数9,000件をあげ、7,000件以上の実績となりました。目標値より低くなりましたが、これからも皆様の一層のご利用をお願いいたします。

3 共同研究の充実

単独で実施することが困難な課題等については、産業界や大学等と一体となった取組が大事と言えます。共同研究への積極的な取り組みを実現するために目標として15件の共同研究実施をあげ、16件の共同研究を実施し、受託研究も含めると22件の共同研究に取り組むことができました。

これらの中には、実用化や商品化に至った事例があります。

4 研究成果の具体化

研究成果等を具体化し、地域産業界の活性化に努めることも当センターの役割の一つです。その目標として、商品化事例3件/年、実用化事例3件/年、技術移転事例5件/年をあげました。

商品化事例では、酢や新しい照明器具など6件の商品化を達成できました。

実用化事例では、発酵製品・竹炭製品など5件が実用化に至りました。

技術移転事例では、シラス利用技術・発酵飲料製造技術・検査技術・電磁ノイズ技術など15件を技術移転し、生産技術の高度化・新製品開発に貢献できました。

以上、1年間の取組状況と成果を申し上げますが、産業界の皆様におかれましては、工業技術センターに気軽にお出かけいただき、これまで以上に利用していただきますようよろしくお願い申し上げます。

間世田新所長も、皆様のご期待に添える工業技術センターを目指しておりますので、よろしくお願い申し上げます。

最後に皆様のご発展を祈念しまして、退職のごあいさつといたします。